

令和5年ホヤ類調査結果速報 No. 1

令和5年7月20日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

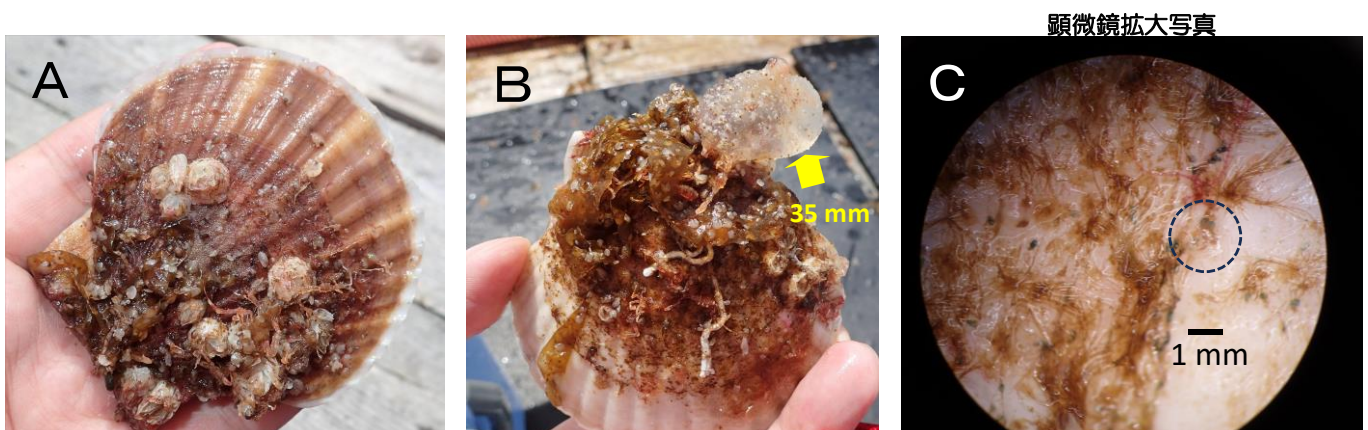
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

7月18日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着数はホタテガイ1枚あたり4.1個体で、この時期としてはやや少ないです（表1、図3）。
- 平均サイズは3.5mmで、大半が肉眼で識別困難なサイズです（図1A C、図2）。
- 平年と同様に、深度20mよりも浅いところでヨーロッパザラボヤの産卵開始水温（13℃）を超えており、繁殖が始まっていると考えられます（図4）。
- 7～8月は噴火湾ではヨーロッパザラボヤの付着数が最も増加する時期です（図3）。この期間にどの程度個体数が増加するかが、その後の付着重量の増加に影響します。次回の調査結果を注視ください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和5年7月18日 八雲地区



ヨーロッパザラボヤがホタテガイ1枚に平均で4.1個体付着していますが、肉眼で識別困難な個体が大半です（A、C）。ただし、一部のホタテガイにかなり早い時期に付着したとみられるこの時期としては大きな個体も確認されました（B）。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和5年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

1. 耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月18日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(図1)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり4.1個体(R4年：7.9個体)でした(表1)。サイズ組成をみると、6月にはみられなかった5mm未満の新たに付着した個体が増えました(図2)。平均サイズは3.5mm(同：2.8mm)で、肉眼では識別が困難な個体が大部分でした(図2)。平均サイズがR4年を上回っていますが、これは調査したホタテ15枚中1枚で34.8mmの比較的大きな個体が付着していたためです(図1B、耳吊り前もしくは耳吊り直後に付着したと思われる)。過去10ヶ年の同時期の平均値(14.2個体)を大きく下回りました。今後、最も付着が多くなる7~8月にかけて個体数がどの程度まで増加するか、また、その後、8~9月にどの程度減少するか、注視していく必要があります。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和5年7月18日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	16.8g	7.8g	6.7g	10.4g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.7g	0.1g未満	0.3g
その他	16.7g	7.2g	6.6g	10.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	2.4個体	7.2個体	2.8個体	4.1個体
令和4年7月(R4.7.20)の個体数	5.0個体	8.8個体	9.8個体	7.9個体
令和3年7月(R3.7.16)の個体数	1.0個体	5.6個体	7.4個体	2.7個体
令和2年7月(R2.7.16)の個体数	0.6個体	2.0個体	5.4個体	2.7個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：令和5年6~7月)

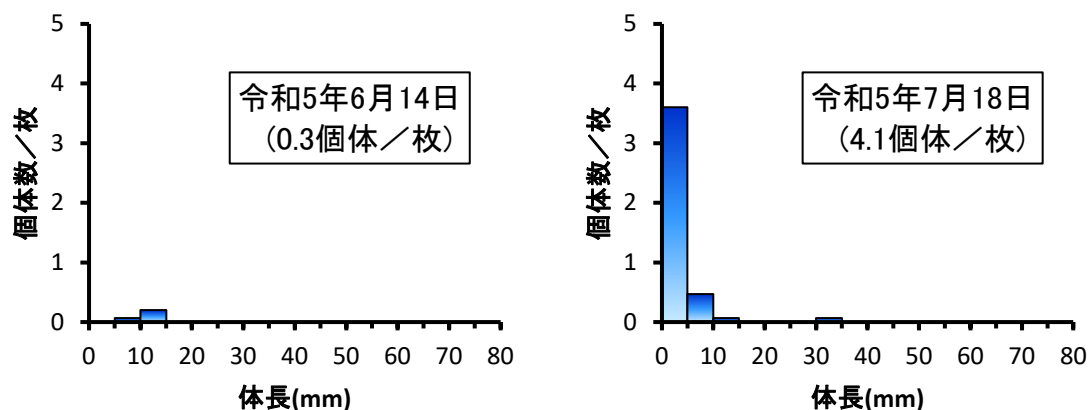
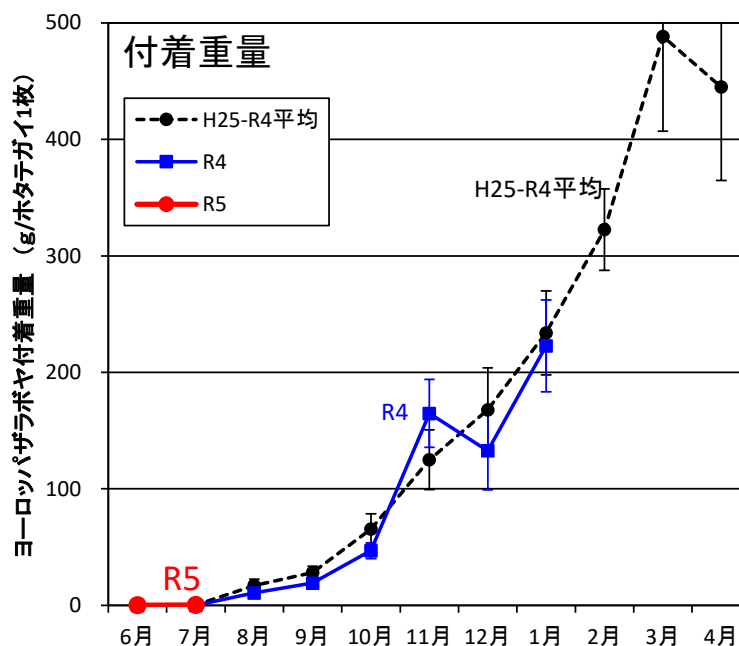
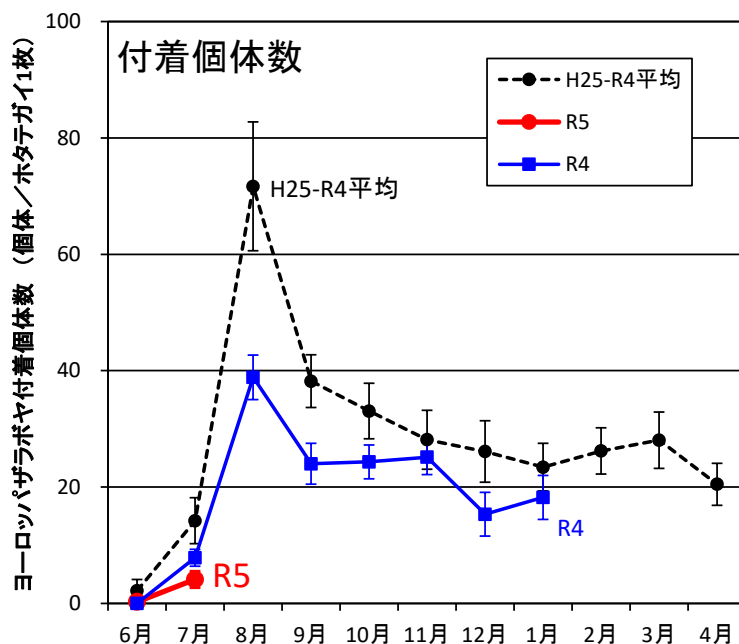


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）

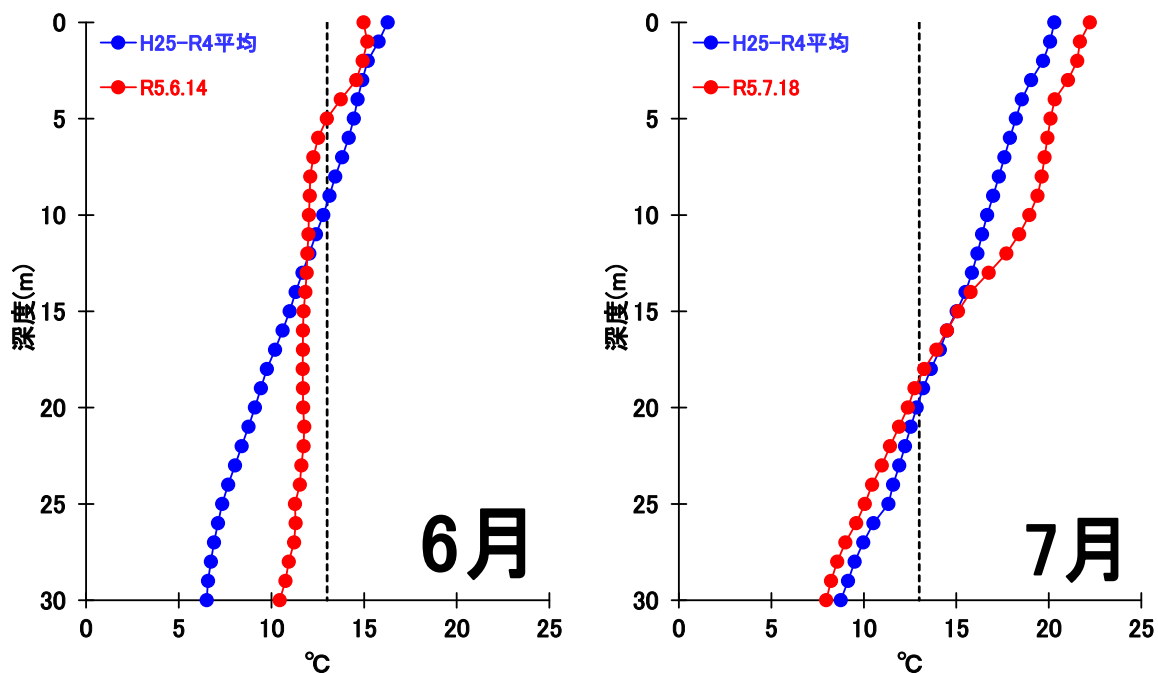


上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去10ヶ年（H25～R4年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着数の7～8月に最も増加し、8～9月に大きく減少します。10月以降、個体数は緩やかに減少していきませんが、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加していきます。なお、H28年7月、11月、R1年4月は欠測。また、R2年から調査期間を6月～翌1月までとしています。

図4 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の6月および7月の水温鉛直分布



左：6月の水温鉛直分布、右：7月の水温鉛直分布

R5年（赤線）のヨーロッパザラボヤの産卵水温（13℃：破線）を超えた深度層は、6月が深度4 mよりも浅い層、7月が深度18 mよりも浅い層でした。平年（青線）のヨーロッパザラボヤの産卵水温を超える層は、6月が深度10 mよりも浅い層、7月が深度20 mよりも浅い層であることから、R5年6月はヨーロッパザラボヤが産卵する水温を超える層が平年よりも狭かったようです。R5年の水温鉛直分布の特徴としては、平年と比べて、6月の鉛直差が小さく、7月の鉛直差が大きいところです。

※H28年7月は欠測のため、7月のH25-R3平均はH28を除く水温で平均値を算出しています。